NIE全国大会 神戸大会 ポスターセッション

公認キャラクター まくら君

（○○教育の救世主）

はがきと學年通信でNIE

～京都探究で残そう、はがき文化～

兵庫県立伊川谷高等学校 主幹教諭（NIEアドバイザー） 福田 浩三

1. 実践の背景・目的

教育現場で増え続ける○○教育に対応するため、本校48回生では週刊『學年通信』に連載コラムや特集記事を掲載することで生徒の学びに繋げている。

SNSの発展など、はがき文化の衰退が危惧される中「はがきを書いて投函する」経験は重要であると報告者は考えた。そこで今回、京都遠足を題材に、事前学習および事後の振り返りへの『はがき新聞』活用と『學年通信』の併用により、

・研修先である京都への興味・関心・探究心を深める
・限られた紙面にて読み手の理解を深める表現力を考える
・生徒がはがき投函における過程を体験する

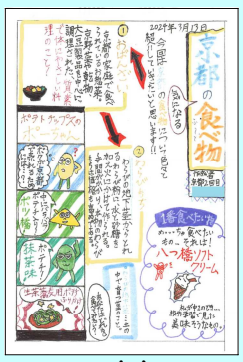
ことを目的に、本実践を行った。

2. 実践①（事前学習）

３月上旬に学年集会にて遠足の行き先（京都）を発表、高校入試に伴う自宅学習期間のおける課題として、はがき新聞による調べ学習課題を提示した。その内容は、

・京都に関する内容であれば何でも可
・調べた内容は必要に応じて出典や参考文献を明記する
・３月19日必着として期日に間に合わせる

とした。届いたはがき新聞（資料１）は、「観光」「建物」「食べ物」「歴史」「いろいろ」の５種に分別して廊下に掲示（写真１）することで、生徒間での内容共有を図った。



(a) (b) (c)

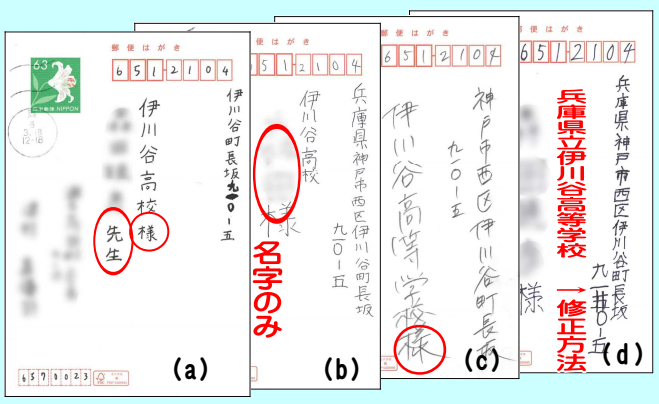
資料１ 生徒の京都調べはがき

写真１ 生徒間の共有

また、送られてきたはがきの宛名書きには、

・様、先生の区別
・住所の表記

など指導を要するものが一定数見られた。その代表例を資料２に示す。



資料２ 指導の要点が得られる表書き

3. 実践②（學年通信の活用）

京都遠足前に學年通信にて遠足下見報告やコラム記事の掲載（資料３）により生徒の遠足に対する機運を高めるとともに、オーバーツーリズム等の京都が抱えている問題について遠足時の確認を促した。遠足実施後は２号に渡りその様子を特集した（資料４）。

(a)

(b)

資料３ 事前コラム

資料４ 京都遠足特集号

4. 実践③（感想はがき新聞）

京都遠足の感想はがき新聞を作成した。その際、生徒はレイアウト、見出し、記事数等を考慮した。当初は生徒各自が事前学習で調べた内容の考察を感想はがき新聞に入れる予定であったが、最終的には考察にこだわる必要は無しとした。

生徒の作品例（資料５）における(a)～(c)は、資料１の(a)～(c)と同じ生徒が作成している。

(a) (b) (c)

資料５ 生徒の感想はがき新聞

5. 結果・考察

はがき新聞の作成により生徒が遠足当日だけでなく、その前後においても京都について多面的に考える事ができた。その中で、生徒への指導におけるポイントとして、

・調べ学習における引用出典の明示についての指導の重要性
・手紙の表書きや必着に間に合う投函の仕方

を得ることができた。はがきを送るという、過去には日常生活の中で学んでいた内容も、今後は教科や特別活動の中で学習していく必要性が示された。

継続したはがき新聞の作成により、その作品から『文章を書く』『要点を見出しとしてまとめる』など、生徒の『書くことによる表現力の向上』が見て取れた。はがき新聞の作成時間は30分程なので、今後も教科の授業や特別活動など様々な機会において、『読み手への伝わり方』をより意識した作成の継続を行う予定である。